な「溪谷の夏」の點出を以つて全卷に一味清爽の氣を送つてゐる如きを見れば、よくわかる。

私は今、此の感じのよいサアクルに對し何かを荒立てゝ云ふような氣分にはならない（寧ろなれない）。

久しく繙き乍ら、云ふべきことを持てる心持ちをし乍ら、私は唯全體のよい感じを語る外はない。それ丈けを云へば私の仕事が盡きてゐるように思はれる程、切に一讀を勸めたいのだ。（閲生）

民族心理講話

米田庄太郎著

本書は京都帝國大學特別講演の筆記である。講演は七回に亙つてゐるが全體の內容は八の部分に分れると見て差支はない。民族心理學の概念より民族精神の說明に入り轉じて歐洲諸民族心理を說き民族的文化と世界的文化を以て終る。講演の時間に制限があるために「民族心理學に於て取扱ふべき總ての問題に亘つて論する事ができず又何れの問題に就ても詳しく論ずる事が出來なかつた」と斷つてある。また講演であるのと聽衆が專門的素養を缺いだ人の多い爲に趣味と平明とを主として、從ひて思ふ存分に學究的なる理論を述べてないと思はれた點も確に認められる。

しかしながら、此問題に關する著者として資格を我米田先生と爭ひ得るものは我國何人もあるまい。其專門的知識に加ふるに、十年近き滯外生活と種々なる民族との接觸とは先生を一の活きたる民族心理學と化したとも云ひ得られるであらう。此著書冒頭より前述の理由によつて敢てその心血を傾注せられたものとは云ひ得ないが、其知見の驚く可き博大、觀察の精到は其何れの頁を開いても到る所に窺ひ得られる。專門のものが之によりて多くの示唆と敎訓とを得來るのは勿論であるが、また、整然たる組織と明快なる叙述は一般の讀者をして容易に民族心理の大體に通曉せしめると思ふ。此問題に關する邦人の著書は未だ一册もない。爲に此書は其最初のものと云ふべきであるが、他人の追蹤を許さゞる著者の地位は同時にまた此書を以て將來に亘つても最良のものたらしむるに充分であると信ずる。東京神田區北神保町十一　弘道館發行　定價八十五錢（高田保馬）

智能の遺傳

心理叢書第二册　村瀨雄平著

最近生物學が身體的遺傳の現象に研究の鋒を向けた以來、從來全然神祕的なものと考へられて居た遺傳の法則が發見せられ、生物に對する概念が一變した。然るに之と平行に研究せらるべき管の精神的遺傳の事實及び其の法則につきては、唯僅かにゴルトン及びピヤソン一派の研究を有するのみである。我國に於ても形態的方面の遺傳につきては、已に特殊の專門的研究も幾分發表せられて居る樣に見受けるが、精神的方面の遺傳につきての科學的研究は皆無と言つても、過言ではあるまい。心理學も亦遺傳に關して多く語る所が無い。構成的心理學が心的作用を其の要素に分解したが、其の要素の發生的研究には未だ手を下していない。されどこの方面の智識が明にならないと精神全體の組織が不明たるを免れない。この點に於て心的特質の遺傳の研究は、心理學の進步の上に欠ぐ可らざるもので、若し心的特質の遺傳の狀態が明となつたならば、精神の組織に對する從來の概念が、形態的組織の概念